

結い YUI

山梨県人権擁護委員連合会

事務局発行

甲府市北口一―一―一九

甲府地方事務局

人権擁護課内

「結い」とは田植えなどの時の助けあいのこと。
土くさくあたたかい言葉です。

世界人権宣言から六〇年

充実した人権啓発目指して

世界人権宣言採択から六〇周年にあたる今年度の人権週間。一年間の締め括りとも言えるさまざまな活動が展開された。主なイベントとしては、中学生の人権作文表彰式、パレードによる街頭活動、特設相談所の開設、広報車による広報活動等があげられる。

は、一月六日、山梨文化会館において行われた。県下九八校、四二九八名の応募の中から甲府地方事務局賞に選ばれたのは昭和町立押原中学校三年深沢美友さんの「心の壁をなくそう」。

スキーで怪我をしたことをきっかけに、障害者の人々の気持ちに思いが至り、「障害者に対して偏見を持たない」という当たり前のことを、



新年のごあいさつ

甲府地方事務局長

藤谷 幸雄



新年あけましておめでとうございます。人権擁護委員の皆様には輝かしい新年をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年、世界人権宣言六〇周年という記念すべき節目の一年であり、皆様の御尽力によって人権啓発パレードをはじめ各種の啓発活動が無事に終了したところであります。

法務局といたしましては、本年も新たな気持ちで人権思想の普及・高揚に努めて参りたいと考えておりますが、各種行事等を円滑に行うためにも皆様の絶大な御協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

中学生らしい素直さで書いた。ハード・ソフト両面でのバリアフリーの必要性を説いている、と高く評価された。応募作文の内訳は、身近な問題の「いじめ」に関する作文が四割近くを占め、次いで環境問題、戦争平和に関する作品が多かった。

樋口審査委員長の講評でも「日頃体験した様々な場面で、人権を真剣にとらえていることがわかる」と指摘され、「次には行動に移せるように」とのアドバイスもあった。



人権作文最優秀賞の中学生、CUB&MUSTを先頭にパレード出発。甲府駅前から平和通りを行進、道行く人々に人権の大切さを訴えた。コースは安全の面から、例年より短くなったが、行進のマナーも守られ、整然と華やかに行われた。

開催月日	行事名	開催場所
10月12日	甲斐市わくわくフェスタ	日本航空学園(甲斐)
10月19日	甲州およつちよい祭り	塩山下於曾(甲州)
10月25日	ふれあいフェスティバル	富士北麓公園(富士吉田)
10月25日	身延健康福祉まつり	市ノ瀬体育館(身延)
11月 2日	ふじかわの郷秋まつり	富士川ふるさと工芸館(身延)
11月 9日	山梨市どっとこむ祭り	山梨市駅前(山梨)
11月 9日	大柳川もみじまつり	やすらぎ水辺公園(鰍沢)
11月15~16日	ふれあいフェスティバル	小瀬スポーツ公園(甲府)

MUSTの出迎え、風船の準備、一日人権擁護委員委嘱式、甲府駅前啓発活動、今回は特に、ヴァンフォーレ甲府のクラブマスケットとして、人気の高いヴァンくんも加わってのデパート内啓発活動：等々が順調に進められ、併せて午後のパレードに向けての準備も行われた。

今年度も各地の祭り会場で、多彩な啓発活動が実施された。予想外の沢山の人数に、嬉しい啓発となった。

各地で秋の人権啓発

関係各機関に感謝したい。

人権標語「ソネット表彰式」

「いつも心のまん中」

県ネット事業の人権標語コンテストも今年度で三回目、応募総数は七五八三点と、昨年より若干少なかったものの、小学生、中・高校生の間には一層の浸透が図られて、質量ともに充実のコンテストとなった。表彰式は一月九日、甲府市談露館で行われた。小・中学生には付添の保護者も多く、和やかな表彰式となった。

小学生部門最優秀の押原小四年大村純奈さんの、「思いやりいつも心のまん中に」を始めとして、今回も印象的な作品が多かった。これらの作品は、県内外の人々に人権問題を強く意識させ、考えるきっかけを作ってくれるに違いない。

ラッピングバス快走中

一〇月一日から、県内各地をラッピングバスが走行している。山梨交通と富士急行の各社一台ずつに、まもる君とあゆみちゃん、それに人権のメッセージを載せ、ヴァンフォーレ甲府のヴァンくんも友情出演中。ラッピングバスの運行は



県内各地を巡るラッピングバス

法務省の委託事業の一環として行われるもので、出発式が、県ネット主催により一〇月一日午前一〇時から甲府駅前において盛大に行われた。人権パレードでおなじみの城北幼稚園マーチングバンドが、この日も式

を大いに盛り上げた。可愛らしいまもる君・あゆみちゃんのキャラクターバスに、愛らしいマーチングバンドの子どもたちはよく似合い、観客を喜ばせていた。

黄色のラッピングバスは、三月末日まで運行される。

第一、一回研修会開催

県連主催の研修会が、一〇月三日、一月七日に開催された。今年度は全体研修会が三回から二回に見直され、どちらも出席率が例年に比べて非

常に高かった。

第一回は「ネットいじめによる子どもの人権とその対応」と題する講演で、講師は全国カウンセリング協議会理事長の安川雅史氏。深刻化を増す「ネットいじめ」の実態を次々に紹介、「顔の見えぬいじめの恐怖」を一同に示して、背筋を寒からしめた。聞き慣れぬ用語も飛び出し、会場は終始緊張気味。短時間のため、対応策までは学べなかったが、ネットいじめと闘う協議会の存在を身近に感じられたことは、大きな収穫であった。今後この問題はますます増加することは必至で、再度ゆつくり学習する機会が必要だろう。

第二回は、市川三郷町ふるさと会館での開催。多方面からの要望もあり、峡南協議会の人権教室をじっくり学習しようというもの。第一部は「人権教室の取り組みと経過」について塩島委員から、第二部は「実施内容」について赤池委員から発表があった。パワーポイントやビデオなどふんだんに使用しての発表で、そのレベルの高さ、平成一七年から協議会挙げて取り組んだという組織力、完成度高い「教室」など、驚

きの連続であった。

研修会開催に当たり、峡南協議会委員全員がご尽力下さったということだ。心から感謝したい。

SOSミニター

昨年一〇月下旬から、県下全小中学生に配布されたミニレターは、短期間にも拘らず、一月一三日現在一〇一通届いている。

女子からの相談が圧倒的で、小学校三・四・五年生からのものが多かった。法務局職員と人権擁護委員が丁寧に返事を送っている。

委員から一言

「人権教室」

荒井 繁

(富士吉田市)

学童保育を中心に市内八カ所で行われた。酒井支局長、石井・田辺委員が、分かり易く話されたので、目を輝かせて聞いていた。今までにいじめられたことがある人、いじめたことがある人、大勢手を挙げて、学童保育の先生も驚いていた。今後二度といじめをしないうち、大勢手を挙げて、全員が手を挙げた。啓発活動を通じ、いじめがなくなればいいと強く感じた。

関東ブロック委員研修会

一〇月三〇日(三十一日、

東京法務局で委員研修会が開催され、山梨県連からは、丸山会長をはじめ九人が出席した。分科会は、昨年に引き続き「子どもの人権」「企業と人権」「障害者・高齢者の人権」をテーマに意見交換がされた。

特に、企業に対する啓発活動に対し、一〇三の県連から熱い意見が出された。

退任された委員の方々

平成二一年一月一日付けで次の委員の方々が退任されました。在任中のご活躍に敬意を表し、今後のご健勝をお祈りいたします。(敬称は略させていただきます)

- 小林 敦則 (甲州市)
- 岡上 錦 (南ア市)
- 深澤 武美 (南ア市)
- 田中 邦昭 (中央市)
- 山本 興藏 (増穂町)

編集後記

新年おめでとうございませう。今年もよろしくお祈りいたします。事務局一同

